

連 載

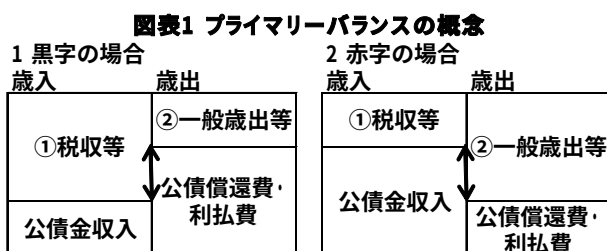
経済指標の窓 <第9回>

財政関連指標① プライマリーバランス

岡山 正雄

プライマリーバランス

プライマリーバランスとは、公債金収入(新規公債発行額)を除いた歳入(①)と、公債償還と利払いに充てられた支出を除いた歳出(②)の差である(図表1、①-②)。これが黒字になっている場合(①>②、図表1中の1)は、税金などの本来の収入の範囲内で、公共サービスなどに必要な費用が賄えていると同時に、公債金収入が公債償還と利払いよりも少なくなっている



ることを意味する。一方、赤字になっている場合(①<②、図表1中の2)は、公共サービスに必要な費用の一部を国債発行で賄っていると同時に、公債金収入が、債務償還と利払いに充てられていることを意味する。このような状態が続けば、財政の持続可能性維持が難しくなるほか、将来世代の負担増につながる。

日本の事例

厳密には債務削減には公債の新規発行額が償還額を下回り続ける必要がある。しかし、プライマリーバランスが少なくとも均衡し、債務の利子率が名目 GDP 成長率を下回り続けられれば、債務残高と税金の基となる経済活動を表す GDP の比率(債務残高/名目 GDP)は低下していく。このため、財政健

全化を進める第一歩としてはプライマリーバランスの黒字化は重要である。

日本でも、小泉政権下の01年に「今後の財政運営及び経済社会の構造改革に関する基本指針」で、02年予算での国債発行を30兆円以下に抑え、その後、プライマリーバランスを黒字にすることが決定された。さらに06年の「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」では、国と地方のプライマリーバランスを11年度に確実に黒字化することを目指し、取り組みが行われた結果、06年度には国と地方のプライマリーバランスは2.8兆円と黒字化した(図表2)。

しかし、08年にリーマンショックが発生し、景気下支えのために大規模な財政出動を余儀なくされると、09年度のプライマリーバランスは▲29.8兆円まで悪化した。このため、10年の「財政運営戦略」では15年度までにプライマリーバランスの赤字を10年度の半分以上にし、20年度までに黒字化するという方針に変更した。

ただ今後は、11年の東日本大震災からの復興に向けて、復興債の発行が予定されており、復興債の償還に見合った増税がスムーズに実施されない場合には、プライマリーバランスの早期黒字化達成は極めて困難な状況である。

